

授業概要

科目名		学習認知心理学						授業の種類	演習	必修・選択		必修
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位	配当学年時期		1年	後期	
【授業の目的・ねらい】 人間の知覚・認知・学習・言語などについて行われてきたこれまでの実験や調査を学び、そのメカニズムや理論がいかんとして作られたかを理解する。												
【実務者経験】												
【授業全体の内容の概要】 言語聴覚療法に関連する感覚・知覚・認知・学習・記憶などに関する心理学の実験や理論について理解できる。 国家試験に則した基礎的知識を身につける。												
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 学習・認知心理学の基礎を理解し、次のステップであるその障害の理解の準備をする。また、医療現場で用いられる学習・認知心理学の用語を誤用なく理解・使用できることを目標とする。												
回数	講義内容										準備物(教材)	
1	心理学における学習と認知について理解できる。											
2	感覚・知覚Ⅰ(感覚の種類, 感覚間の相互作用, 閾, 触覚)について理解できる。											
3	感覚・知覚Ⅱ(視覚①明暗, 色彩, 恒常性)について理解できる。											
4	感覚・知覚Ⅲ(視覚②錯視, 形・奥行き・運動知覚)について理解できる。											
5	感覚・知覚Ⅳ(視覚③視知覚の発生・損傷)について理解できる。											
6	感覚・知覚Ⅴ(聴覚)について理解できる。											
7	記憶Ⅰ(記憶の過程、短期記憶、ワーキングメモリー)について理解できる。											
8	記憶Ⅱ(長期記憶: 記銘・保持、想起、忘却、変容)について理解できる。											
9	記憶Ⅳ(記憶の神経学的基礎)について理解できる。											
10	学習Ⅰ(古典的条件付け、オペラント条件付け)について理解できる。											
11	学習Ⅱ(技能学習、社会的学習、動機づけ、情動)について理解できる。											
12	思考Ⅰ(問題解決、思考の認知発達)について理解できる。											
13	思考Ⅱ(知識、推論、発見、コンフリクト)について理解できる。											
14	言語と非言語Ⅰ(象徴・記号・図記号)について理解できる。											
15	言語と非言語Ⅱ(言語の形成、理解・表出、非言語コミュニケーション)について理解できる。											
定期筆記試験												
【使用教科書・教材・参考書】 『言語聴覚士テキスト第3版』医歯薬出版												
【準備学習・時間外学習】 復習による知識の整理が必要です。												
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。												